

資料課資料利用係 一同

レファレンス・サービスとは、ひと言で言えば資料や調べ物のよろず相談です。先生や院生のみなさんからの依頼に応じて、昭和〇年の新幹線時刻表を調べたり、ある本に月報があるかないかを問い合わせたり、戦前の博物館展覧会情報一覧がどうやったら入手できるか探したりします。外国人の先生に「チョベリバってなんですか?」ときかれたこともあります。

戦前のある国の為替レートを知りたい、という相談を受けたことがあります。このときには、まず何を見たらその情報が載っているのか、調べ方を調べます。国立国会図書館の情報提供サイト (<http://navi.ndl.go.jp/navi/index.php>) や分野別の書誌・事典類、その国について書かれた専門書の本文や注釈などを見て、その情報が載っているような文献をピックアップします。そしてその文献を持っている図書館や研究機関を調べ、メールやFAXで該当ページを調べてもらったり、コピーを送ってもらったりします。

専門的な知識や文献については先生や院生のみなさんのほうが詳しいはずですし、ほとんどの方が基本的なことは自分で調査なさった上で、相談に来られます。私たちにできるのは、調べる手がかりがどこに書いてあるか、どこに問い合わせたら必要なことがわかるか、そういうお手伝いです。いまはインターネット上に多くの情報があるため、あれもこれも調べたがそれでも分からなかった、という困難な質問が図書館に持ち込まれます。難しい問題が持ち込まれた時には、係内でお互いに相談し合います。こういう問題にはこういうやり方があるんじゃないか、以前こういう質問があったときにはあの大学が頼りになった、というようにそれぞれの経験をもち寄って対応しています。

相談の多くが、このことについて調査した上でそのコピーがほしい、というようなILL文献複写や現物入手につながるようなものです。日文研に五〇万冊の本があっても幅広い分野のリクエストに応えるには充分ではありませんから、外部に頼ることになります。他の大学図書館や資料館、文庫などの事務所、政府機関や外国の図書館などに、複写や貸出や調査の代行をお願いします。そのための仲介役をしています。

逆に、他の大学から調査の代行をお願いされることもあり

ます。日文研には他の図書館では持っていないような洋書やマイクロフィルムが多く、遠くて実際に見に来られない人や複写を求める人が問い合わせを送ってきます。例えば何年何月の新聞に誰々の講演会に関する記事が載っているか、という問い合わせがあれば、その月の全日のマイクロフィルム、見つからなければ別の月のマイクロフィルムも一コマづつ探していきます。何々という本にこういう人物の記事が載っているか、と尋ねられれば探しますし、すぐに分からなければ手がかりとして目次のコピーを送ったりもします。外部から問い合わせてくる人たちは、実際にその資料を自分の目で見て確認することができませんので、私たちがその人たちの目の代わりとなって資料を読むことになります。もしかしたらこの情報が手がかりになるかもしれない、とか、逆に聞かれないことでもこれを教えてあげなかったら誤解してしまうかもしれない、というようなことを考えながら回答します。

たとえ似たような質問であっても、実際に求めていることは人によって異なります。ですので、質問や調査を受けつける時は、できるだけ相手とコミュニケーションをとって真意を理解するようにしています。時には依頼者ご自身もはっきりと意識していないことが多いので、こちらから質問して確認しなければなりません。いつまでにほしいのか。見つからなかったら代わりのものでもいいのか。日本語と英語どちらの情報がほしいのか。発表に使うのか論文に載せるのか現地へ行く予定なのか。そしてその背景として、先生や院生の方がそれぞれふだんどんな調査研究をしていて、ふだんからどんなことを求めているのかを理解することも、レファレンス・サービスには重要です。お一人お一人に時間をかけて対応ができるのも、この図書館の大事な特徴だと思います。ですから私たちは、新しい先生や院生の方がいらっしゃったら、まず顔と名前を覚えることから始めます。